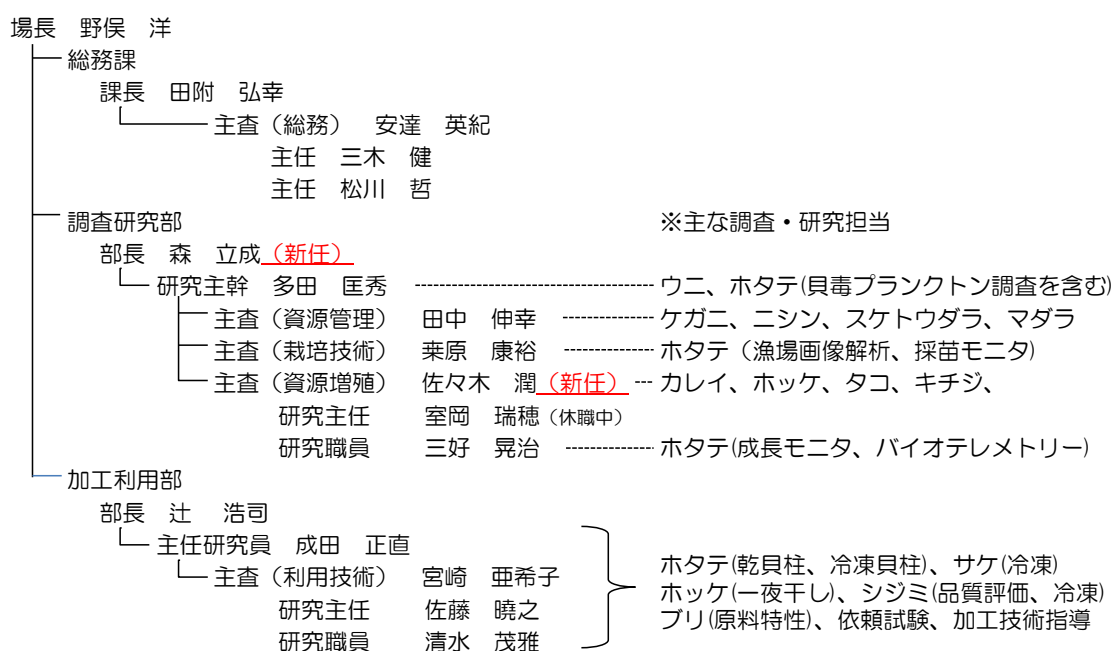


新年度に入り、それぞれの職場で人事異動や新規採用者などにより、新たな体制で業務が始まっていることと思います。網走水試でも新たなスタッフが加わり、新年度の調査・研究業務を始めております。今回は平成 26 年度の網走水試の組織体制と調査・研究課題をご紹介します。

▼平成 26 年度の網走水試の組織体制と各スタッフの業務担当は下記のとおりです。調査研究部では 4 月 1 日の人事異動により、宮園部長が中央水試、城研究主任が栽培水試へ転出し、それぞれの後任として栽培水試から森部長と佐々木主査が着任しました。なお、紋別庁舎の加工利用部のスタッフには異動はありません。



▼調査研究部ではケガニ、カレイ、ホッケ、スケトウダラなどの資源モニタリングと評価、ホタテガイの成長モニタリングや採苗安定化に関する調査・研究に引き続き取り組みます。また、昨年度までに「漁場海底画像を利用したホタテガイ高精度資源量推定技術開発」で得られた成果を現場で活用して頂くため、今年度から 3 ヶ年計画で、漁場海底画像の撮影機材とその運用を含めた調査法や解析用プログラムを一体化した実用システムの構築を進めます。

▼加工利用部では、オホーツクの主要漁獲物や加工品である秋サケ・ホタテ貝柱の冷凍品や乾貝柱、乾ナマコ、網走湖産シジミの品質の向上と安定化を図るための試験研究に引き続き取り組みます。また、今年度は乾貝柱製造時の煮汁や等級外品を利用した食品素材の開発や近年、道内でも漁獲が増加しているブリの有効活用を支援するための原料特性などに関する調査を実施します。なお、両研究部の研究課題とその概要は、網走水試 HP の下記 URL に掲載しておりますので、ご覧ください。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/abashiri/section/soumu/mf7eo1000000i5c.html>